

受験対策・確率③

① 大小2つのさいころを同時に投げ、異なる目が出た場合は、出た目の数の大きい方を得点とし、2つとも同じ目が出た場合は、出た目の数の和を得点とする。これらのさいころを1回投げたとき、得点が4点となる確率を求めよう。

② 右の図のように、点A, B, C, D, E, F, G, Hを頂点とする立方体があり、この頂点上を移動する2点P, Qがある。大小2つのさいころを同時に1回投げる。点Pは、点Aを出発点として、大きいさいころの出た目の数だけ、 $\rightarrow B \rightarrow C \rightarrow D \rightarrow A \rightarrow B \rightarrow C$ の順に移動し、点Qは、点Eを出発点として、小さいさいころの出た目の数だけ、 $\rightarrow H \rightarrow G \rightarrow F \rightarrow E \rightarrow H \rightarrow G$ の順に移動する。このとき、直線PQと直線CGが、ぬじりの位置にある確率を求めよう。ただし、さいころを投げるとき、1から6までのどの目が出ることも同様に確からしいものとする。

